

2011年度

科目名	フィールドワーク I A				
担当教員	鈴木 利一				
配当	文 2		コード	80035	
開期	集中前期	講時	集中0限	単位数	2
授業テーマ	韓国の世界文化遺産に日本文化の源流を訪ねる。				
目的と概要	「大陸文化伝来の道」をテーマに韓国各地を訪れ、日本と韓国とに共通する文化やその差異を探ります。日本文化の黎明期には、先進的な大陸文化の多くが朝鮮半島経由でもたらされました。そのため、両地域の古代遺跡や文化遺産を見比べた時、そこには大変多くの共通点があることに驚かされます。現地で実物を直接目にするにより、今一度自分たちの文化をふりかえてみたい。それが、このフィールドワークの目指すところ です。				
成績評価法	講義への参加状況(40%)、課題の提出状況(40%)、課題に取り組む姿勢(20%)等を勘案し、総合的に判断しま す。				
テキスト	特に定めない。				
参考書					
履修に当たっ ての注意・助言 /準備学習	必ず、フィールドワーク I Bと併せて履修して下さい。 講義日程は、登録者との相談によって決定します。変則的かつ集中的に行われますので、一旦決められた講 義日には、必ず出席してください。 受講のための準備学習として、最低限のハングル読み書き能力を養成するため、NHKのテレビ講座からラジオ 講座を継続視聴するよう努めて下さい。				
講義計画					
実地調査の目的地は、新羅の古都慶州、提携校である又松大学のある大田市、そしてソウルを踏査する予定です。 現地調査に際しては、地域、事項ごとにグループ毎の担当を決め事前調査資料を作成します。現地調査の後、これ をレポートとしてまとめ提出することになります。フィールドワーク I Aでは、その事前準備段階として以下の日 程で講義を進めます。					
1. 事前指導と文献調査（4月～7月：月1回程度の集中型講義と個別指導）各自の担当分野を決め、従来の諸説や 手がかりとなる文献調査等をこの期間に進めておきます。この調査にもとづき、韓国での現地踏査時に各自が担当 箇所の現地説明を行うための資料を作成します。また、韓国の映画・音楽などを通して大衆文化に触れ、我々の文 化や思考法との共通点や異なる点に触れる機会も設けたいと考えています。					
2. 第1次現地踏査（7月～8月）関西各地に点在する古代の渡来文化に関わる遺跡や寺院への現地踏査を日帰り で実施します。この実習を通して、フィールドにおける視点の置き方や調査手法の基礎を学びます。この期間中に、 現地でのコミュニケーションに困らないよう、各自で韓国語の基礎を習得することを期待しています。また、安全 かつ有効なフィールドワーク遂行のためにも、リアルタイムの現地情報の収集が不可欠です。渡航準備に当たって は、文献のみならずインターネットを利用した情報収集が必要になりますので、有効なサイト利用法及び情報や電 子データの取り扱いについても、機会のあるごとに解説し指導していく予定です。					